

ちいきそうぞう



第7号

2011.12.16

主な内容

この8年を振り返って・新たな方向へ
副理事長 小野塚眞一…… 1
『地域創造センターに期待します』
新潟県土木部長 田宮 強志…… 2
平成23年7月豪雨から4ヶ月
新潟県土木部河川管理課長 田辺 敏夫…… 2

災害続きの1年「豪雪・地震・水害」に想う
十日町地域振興局長 奥野 賢…… 3
活動状況報告…… 4
河川情報モニター実施報告及び
都市公園情報モニター実施報告 …… 5



この8年を振り返って・新たな方向へ

副理事長 小野塚 眞一

本格的な冬の到来を迎え、師走の風が身にしみる今日この頃ですが、思い起こせば、例年になく早い梅雨明けとともにやって来たあの猛暑が、今では、懐かしくさえ思えます。会員の皆様には、日頃からセンターの運営に対しまして、心強いご支援とご協力を賜わり、心から感謝を申し上げます。

さて、大災害に明け暮れた1年もその幕を閉じようとしていますが、今年を振り返ってみると、何と言っても「3. 11東日本大震災」のあの巨大津波が、真っ先に思い浮かびます。死者16,709人、行方不明者3,499人という、これまでに経験した事のない、未曾有の大災害がありました。これまで、嘗々と造ってきた防波堤、防潮堤などは、あの大自然の猛威には、ひとたまりもありませんでした。人間の造ってきたものとは、この程度のものだったのか、と思い知らされたような気がいたします。

ところで、センターも平成15年10月の設立以来、早いもので8年が経過し、この11月からは、9年目に入っています。ここで、センターのこれまでの主な活動について振り返ってみたいと思います。最初の大きな活動は、平成16年の「7. 13豪雨災害」で、県からの応援要請を受け、会員の皆様の協力のもと、被災地域で河川などの被災調査の支援にあたりました。同年の「10. 23中越大震災」では、震災直後のまだ余震が残る中、河川や道路の被災調査の支援を行うとともに、県災害対策本部に義援金を贈呈しました。この一連の活動は、高い評価を受け、平山・泉田の両知事から感謝状を頂きました。平成19年の「7. 16中越沖地震」でも、応援要請を受け、査定準備の支援を行っております。又、平成18年度から取組んでいる「河川情報モニター」も6年目となり、本来の巡視目的は勿論のこと、災害査定の際には、日頃の巡視実績を説明する資料として、有効に利用されているそうです。更に、平成22年度からは「都市公園情報モニター」への協力要請を受け、試行的に実施するとともに、2年目となる本年度も試行中です。

さて、9年目に入ったセンター活動ですが、これまで取組んできた各種事業は、引き続き、会員の皆様のご協力を得ながら、継続していきたいと思います。更に、センターの存在意義を高めるとともに、賛助会員の活動参加機会を増やすべく、各地域整備部ごと、あるいはもう少し広い地域を設定して、「地域講演会・フォーラム・懇談会」的なものを地域整備部のご協力を得ながら開催していきたいと考えています。又、会員の皆様が関係する各種の行事に対し、センターの目的に沿っていれば、会員以外の皆様へのセンターのPRも兼ねて、事業費の補助をスタートさせています。なお、災害時の支援については、7月末の「新潟・福島豪雨」の際に、一部地域で若干の支援を実施しましたが、今後については、その支援内容や支援体制等について検討課題が残されています。

最後に、「3. 11東日本大震災」を期に、公共事業に対する国民世論に変化を感じとれます。この機運を逃さないように、会員の皆様が、地域貢献活動などの場で、その活動を通じて、公共事業の必要性、重要性を訴えていくこともセンターの役割のひとつだと思います。そのためにも、会員の皆様には、センター活動への一層のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げまして、報告といたします。



『地域創造センターに期待します』

新潟県土木部長 田宮 強志

特定非営利活動法人にいがた地域創造センターの皆様におかれましては、日頃から本県の土木行政の推進に御支援、御協力を賜り感謝申し上げます。

今年は、本県にとって1月の「豪雪」、3月の「長野県北部地震」、7月の「新潟・福島豪雨」と災害多発の年となりました。特に、7月の豪雨災害は、県内の広範囲で甚大な被害となり、被災直後から職員はもとより、関係団体の方々から全面的な協力を頂き、災害対応に全力で取り組んで参りました。

また、「7.13水害」と比べても降雨量が非常に多く、広範囲にわたりましたが、人的被害や家屋被害などが比較的少なかったことは、河道拡幅や築堤、遊水地などの整備を進めたことに加え、洪水や土砂災害のハザードマップ作成などソフト対策にも取り組んできた効果であり、「コンクリートから人へ」ではなく「コンクリートも人も」重要だということだと思います。

職員数や公共事業費の減少など建設産業を取り巻く環境は依然厳しく、災害対応力の更なる低下が懸念されます。

一方、県民からは、復旧へのスピード感や、きめ細やかな対応が求められており、経験豊富な人材が多く所属し、建設技術を通じて社会貢献を行う貴センターの災害時を含めた様々な活動に今後とも期待するとともに、益々の発展を祈念いたします。



平成23年7月豪雨から4カ月 －災害査定と防災の心構え－

新潟県土木部河川管理課長 田辺 敏夫

7月の新潟・福島豪雨では県・市町村合わせて約3千箇所の公共土木施設が被災し、その被害額は763億円にも上りました。災害査定も9月26日から7週間連続で実施した結果9割以上が終わり、年内には完了します。災害査定の厳格化により被災前の状況確認を求められていますが、NPO法人にいがた地域創造センターの皆さまからご協力いただいている河川巡視の記録が威力を発揮しているところであり、感謝申し上げる次第です。

さて、私はこれまで大災害の最前線に立った経験がなく、河川管理課補佐時代には職員に「私がここにいる間に大災害はないから」と話していました。しかし、課長として赴任してからはさすがに「まずい」と思い、挨拶や研修などでは次の故事を紹介していました。

「居安思危（安きに居りて危うきを思う）、患則有備（思えば則ち備えあり）、有備無患（備えあれば患いなし）」

孔子編集の史書「春秋」の注釈書「左氏伝」にある句で、「平常時において危ないところがないか考える。危ないところがあれば備えをする。備えをすればいざというときあわてずに行動出来る」ということで、「防災の基本（心構え）」を言い表した言葉です。

今回の豪雨でのこの故事どおり私自身が行動できたかは「？」ですが、来年の出水期に備え、やるべきことをしっかりとやり、県民から「！」の評価をいただければと思います。

今後とも、会員の皆さまからのご支援とご協力をよろしくお願ひいたします。

平成23年7月新潟・福島豪雨被害報告（H23.12.6現在）

都道府県工事		市町村工事		計	
箇所数	金額（億円）	箇所数	金額（億円）	箇所数	金額（億円）
1, 849	565	840	86	2, 689	651



災害続きの1年 「豪雪・地震・水害」に想う

十日町地域振興局長 奥野 賢

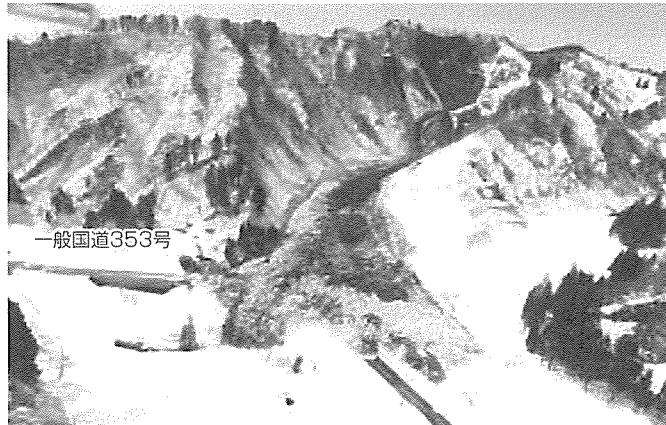
本年4月十日町に赴任をした時には、市内外で多くの積雪があり、雪解けによる2次災害を懸念するほどでした。今冬の最大積雪深は津南町役場で310cmと、18年豪雪の362cmに匹敵する大雪となり、十日町地域管内の人的被害は死者2名、重軽傷者45名に及び、住家被害も13棟となるなど大きな被害が発生しました。(被害状況は6月6日現在 県防災局)

また、その豪雪が残る中、3月12日早朝、「長野県北部地震」が発生しました。マグニチュード6.7、震度6弱、管内の人的被害は軽傷者36名、住家被害は全・半壊274棟、一部損壊1,816棟となるなど、災害史上稀な豪雪の中での大きな地震災害となりました。(被害状況は11月11日現在 県地震災害対策本部)

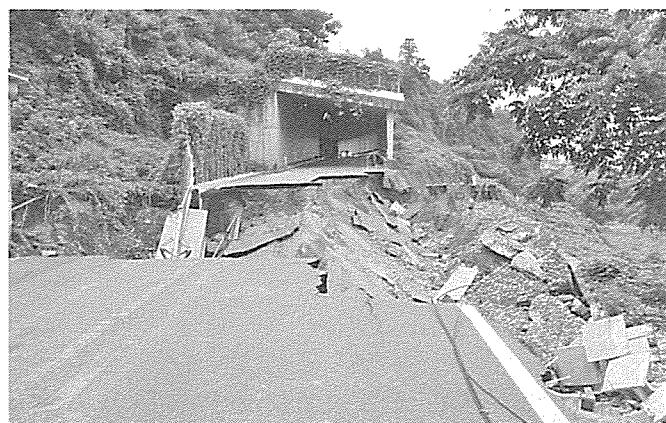
さらに、この災害査定の最終週を迎える直前に「平成23年7月新潟・福島豪雨」が発生しました。7月27日から降り始めた雨は十日町地域振興局で29日21時、新潟県内観測史上最大となる時間雨量120mmを記録し、累計雨量が493mmとなった豪雨です。管内の人的被害は死者・行方不明2名、軽傷者3名、住家被害は全・半壊50棟、床上・床下浸水691棟となるなど未曾有の水害となりました。(被害状況は10月28日現在 県豪雨災害対策本部)

このように今年の十日町地域は冬季から3度の大きな災害に見舞われ、視察や査定、復旧などの災害対応に追いまくられた感があります。また、全国的にも東日本大震災や台風12号による水害など各地で史上最悪と呼ばれる大災害が頻発しています。国家予算の厳しい中ではありますが、まだまだ災害対応が不十分と思いまので、防災力の着実なレベルアップのため、更なる公共投資が必要と切に感じたところです。

最後になりますが、貴センターには毎年の河川巡視を始め、今年は特に台風12号災害の現地調査にもご尽力をいただき、この場を借りまして感謝申し上げます。日頃からの公共施設の見守りが災害時の対応力につながりますので、今後ともよろしくお願いします。



長野県北部地震被害箇所
津南町 辰ノ口地内トヤ沢
被災状況：土石流



平成23年7月新潟・福島豪雨被害箇所
主要地方道 小千谷十日町津南線
十日町市 小泉地内
被災状況：道路崩壊



平成23年7月新潟・福島豪雨被害箇所
一級河川 晴川
十日町市 川原町地内
被災状況：河道埋塞

活動状況報告

(平成22年11月～平成23年10月まで)

■ 平成22年

- 11月17日 河川情報モニター県担当課との意見交換（技術士センタービル8階）
河川管理課 田辺課長 他3名
藤原理事長 他21名
- 11月25日 第22回理事・監事会議
(新潟県建設技術センター3階研修室)
・平成22年度の総会議題について
・役員の改選について
島原副理事長以下15名（19名中）
- 12月17日 第23回理事・監事会
(新潟東映ホテル3F会議室)
・平成22年度総会について
・役員改選の確認について
・第18回理事・監事会の議事録の確認について
藤原理事長以下18名（19名中）
- 平成22年度通常総会**
(新潟東映ホテル朱鷺の間)
・平成21年度事業報告及び収支決算の承認について
・平成22年度事業計画及び収支予算（案）について
・役員改選について
・その他（河川情報モニター・受託事業等）
正会員295名中
出席者112名 委任状提出者136名
- 講演会及び懇親会 新潟東映ホテル朱鷺の間**
講師 野澤土木部長
演題「最近の土木行政について」
講師 松村牧子氏
バイオリン演奏
来賓25名
- 正会員99名
賛助会員45名



■ 平成23年

- 2月3日 第24回理事・監事会議
(新潟県建設技術センター3階研修室)
・平成23年度総会日程について
・連絡系統の拡充について
・減免の手続きについて
・総会資料の正会員全員への配布について
・「防災協定の応援に関する協定」の第2条の連絡担当者について

- ・テレビの買い替えについて
・全建との業務受託について
島原理事長以下20名（21名中）
- 2月17日 河川情報モニター担当者会議
山岸業務部長 他17名
- 4月29日 第24回新潟県都市緑花フェアー
(新潟県スポーツ公園)
植木副理事長
清水広報部長以下4名

- 5月19日 新潟県都市公園情報モニター県担当者との打ち合わせ会
都市整備課 高橋課長以下4名 山岸業務部長以下13名（県庁会議室）

- 6月28日 第25回理事・監事会議
(新潟県建設技術センター3階研修室)
・平成22年度入退会状況について
・全建との受託契約について
・新潟県土木部標準設計図集差替え分の単価設定について
・NPO会員が係わる各種事業に対する補助金について
・第5条の事業拡充に関する理事・監事会申し合わせ事項策定・実施について
島原理事長以下16名（21名中）

- 7月16日 新潟県中越沖地震4周年合同追悼式
(柏崎市民プラザ)

- 植木副理事長
7月20日 にいがた道の研究会第9回トーク会
(新潟会館)
島原理事長他（会員外含め）45名

- 7月30日 万内川砂防公園サマーフェスティバル
(妙高市万内川砂防公園)
田中理事他（会員外含め）25名

- 8月30日 第26回理事・監事会議
(万代シルバーホテル5階)
・平成23年度総会時の講演依頼について
・平成22年度補助事業の結果について
・県からの発注によるワークショップなどのコーディネート事業の受託の可否について
島原理事長以下20名（21名中）

河川情報モニター実施報告

事業部

河川情報モニター活動も6年目となりました。平成23年は、146名（延べ484名）の会員の皆さまのご協力により、県職員が行う通常巡視の補完業務として4～9月で4回程度、133河川の巡視を無事行うことができました。ありがとうございました。

しかし、会員の高齢化・会員数の不足等、地域により大きくバランスを欠いている現状で、今後の活動にも影響が出てきております。会員の皆さまにおかれましては、地域を越えたご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

■平成23年（4月～9月）河川情報モニター活動状況（新潟のみ11月まで）

地域 機関名	地域担当者		巡 視	巡視河川延長(km)		NPO 配置人員	NPO 実施延人数
	主 任	副 任		河川数	左 岸		
村 上	佐藤 靖	米野 紀男	9	11.0	12.5	5	14
新 発 田	竹内 隆良	森田 幸作	1	13.0	14.0	8	31
新 津	桑原 始	伊藤 靖	33	113.0	18.3	27	80
津 川	佐藤 起一	井上 敏雄	5	9.0	8.0	3	9
新 潟	佐藤 成昭	上田 茂樹	5	14.0	13.0	9	12
巻	西片 喜章	—	7	73.7	64.7	10	28
三 条	酒井 一夫	—	12	51.3	51.3	8	32
長 岡	吉野 利夫	清水 洋一	9	63.3	63.3	26	101
与 板	吉野 利夫	清水 洋一	3	23.5	23.5		
小 千 谷	吉野 利夫	清水 洋一	10	19.5	19.5		
魚 沼	小幡 利永	—	2	18.3	18.3	3	12
十 日 町	田口 耕平	中町 和男	7	57.0	57.0	10	29
南 魚 沼	星野 正昭	—	3	15.1	15.1	4	16
柏 崎	赤堀 洋一	関谷 勝広	3	24.0	24.0	6	24
上越・上越東	田中 芳	塙崎 一美	10	69.9	67.4	16	60
糸 魚 川	田中 芳	塙崎 一美	3	20.3	20.3	4	12
佐 渡	佐々木敏和	小鷹 賢正	11	30.2	30.2	7	24
計			133	626.1	520.4	146	484

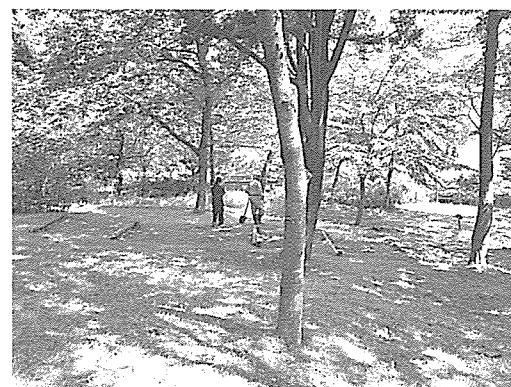
都市公園情報モニター実施報告

事業部

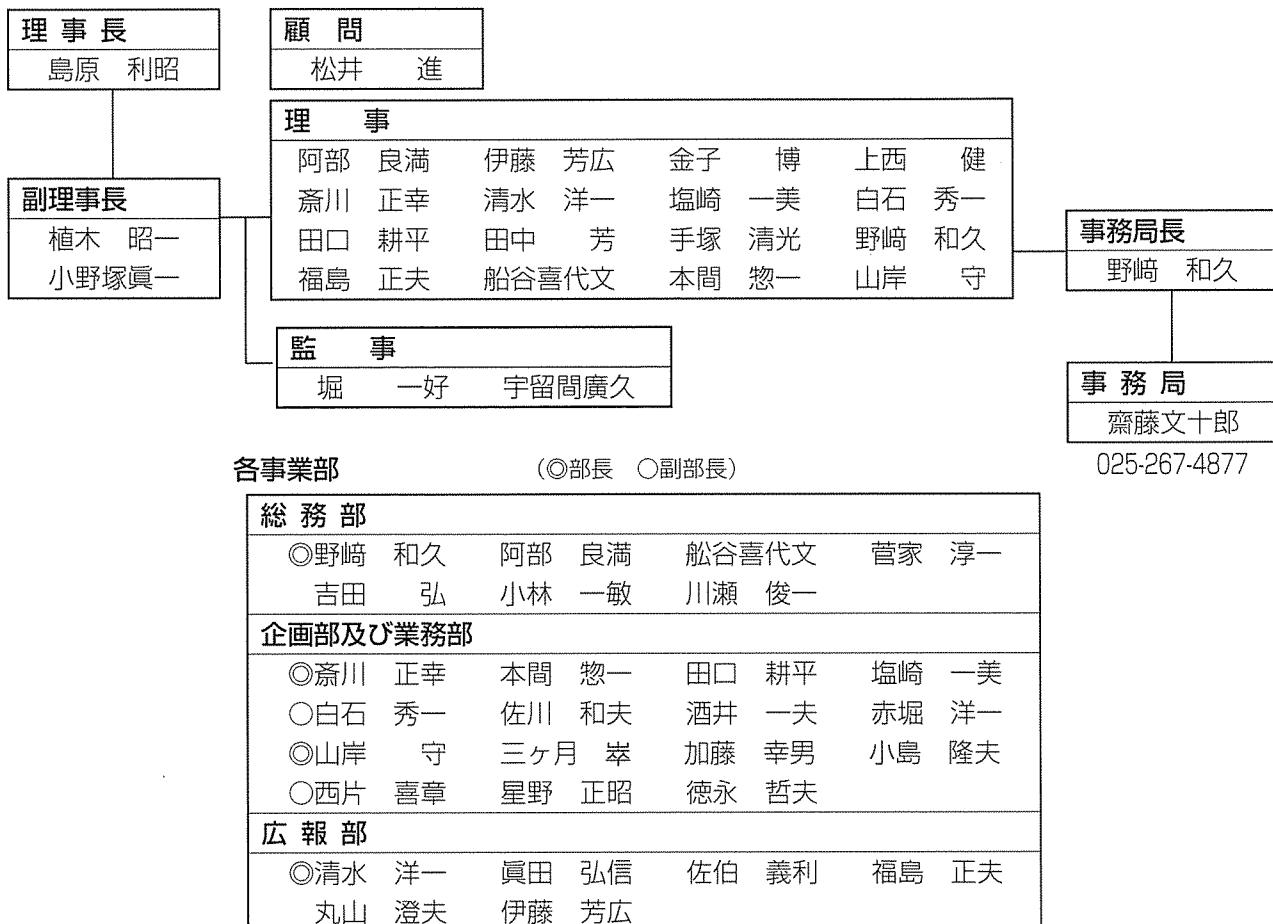
県では、平成19年度より都市公園を利用する県民の視点を公園管理（指定管理者への指導等）に取り入れるため、「都市公園情報モニター」を募集しております。NPOにいがた地域創造センターとしては、平成22年に続き、平成23年度も試行的に取り組んでおり、おおむね年4回モニター報告をしています。

■平成23年 都市公園モニター担当者

公 園 名	担 当 者	
	主任担当者	補助担当者
紫雲寺記念公園	米野 紀男	中澤 敏雄
聖籠緑地・島見緑地	野崎 和久	船谷喜代文
鳥屋野公園女池・鐘木地区	小野塚眞一	中俣 孝
スポーツ公園北地区	植木 昭一	佐藤 成昭
スポーツ公園南地区	上西 健	山岸 守
県立植物園	藤原 俊雄	伊藤 芳広
大潟水と森の公園	田中 芳	村本 至



◆ 組織図 (理事19/監事2)



会員の動向

〈会員数〉

会員区分		設立総会時 H15.6月	平成16年度 H16.11月	平成17年度 H17.11月	平成18年度 H18.11月	平成19年度 H19.11月	平成20年度 H20.11月	平成21年度 H21.11月	平成22年度 H22.12月	平成23年度 H23.12月
正会員		164	204	220	252	275	285	288	295	292
賛助会員	個人	—	6	3	2	2	1	1	1	1
	法人	—	209	207	205	182	174	163	152	152
計		164	419	430	459	459	460	452	448	445

編集後記

ご寄稿頂きましたみなさまありがとうございました。

その中で当センターへのみなさまのご期待、それは毎年の地道な活動がいかに大切であり、今後も継続しながら一步一歩新たな活動を広げていくことと受け止めます。

大きな災害が多発した今年は「辛卯」で、辛い時を踏ん張り乗り越え、新しい世界を開拓して行く年のこと。

来年は「壬辰」、大きな大河の水と乾いた山岳の土を表し、大河を流れる水は大地を潤し、五穀豊穣を約束し、知性を育み、自制の力が働くそうです。

そのような穏やかな年であってと願います。(Y. S)



特定非営利活動法人(NPO法人)
にいがた地域創造センター

理事長 島原 利昭

〒950-1101 新潟市西区山田2522-18
(財)新潟県建設技術センター内3階
TEL/FAX (025)267-4877